

【資料3】

沖縄での
研修風景①

沖縄タイムス
2015年
1月31日
(朝刊)

地図アプリで那覇巡り

静岡・修学旅行生

修学旅行で沖縄を訪れている

静岡・修学旅行生
が、街の歴史や街並みの変遷を学んだ。

静岡県立裾野高校の2年生4人が29日、那覇市の国際通りとその周辺の街歩きを楽しんだ。各生徒がタブレット端末を持ち、現在地の地図と、その場所に関する沖縄タイムスの記事を参照できる「デジタル地図帳」アプリを見ながら、

「地図帳」アプリに登録した新聞記事は、学校で購読している本紙の記事を生徒らがスクラップしてきたもの。地図をタップすると、例えば旧沖縄三越前では同店閉店の記事(2014年)、スターバックス前では外資系コーヒー

ショップの出店が国際通りで相次ぐとの記事(02年)が表示される。

またGIS沖縄研究室の渡邊康志さんの協力で、1910年や72年当時など数種類の写真と地図データも搭載。時代が進むにつれ、変化する市街地の様子も追えるようにした。



タブレット端末に表示された新聞記事などを見ながら、街歩きを楽しむ静岡・裾野高校の生徒29日、那覇市の国際通り

現在地の関連記事表示



アプリの画面。地図上の沖縄三越をタップすると、関連記事が出る

生徒たちは約2時間の街歩き中「こんな所まで海だったの?」などと、タブレットと実際の街並みを見比べながら興味津々の様子。阪井綾夏さん(16)は「観光では見られない国際通りや公設市場の姿が分かり、楽しい」と目を輝かせていた。

引率の伊藤智章教諭は「修学旅行でこうしたアプリを活用するのは、全国でも初の試みでは」と話した。

【資料4】

沖縄での研修風景②

静岡新聞

2016年1月28日

(朝刊)



写真を撮り、アプリに取り込みながら那覇の街の移り変わりを学ぶ裾野高校の生徒たち＝那覇市・にぎわい広場

アプリ使い那覇巡る

裾野高生 修学旅行で変遷学ぶ

修学旅行で沖縄を訪れた県立裾野高校の2年生27人が27日、沖縄タイムスの記事をデジタル地図上に落とし込んだアプリを使って、那覇市の国際通りとその周辺を歩いた。生徒たちは、タブレット端末で現在の地図と、その場所に関する記事や写真を確認しながら街歩き。景観の変化や歴史を楽しみながら沖縄のことを学んだ。

生徒たちは、情報処理科の授業の一環で、アプリを製作してきた。現在の地図とともに、1919年、48年、75年当時など数種類の地図や記事が取り込まれており、沖縄戦前後や本土復帰後の市街地の

変遷を知ることができ。例えば、旧沖縄山形屋（現ホテルJALシティ那覇）前で地図をタップすると、同店閉店の記事（1999年）が出てくる。現在の様子を撮影して載せることもできる。

アプリを活用した那覇巡りは昨年に続き2度目。生徒たちは、沖

縄タイムスの記者から説明を受けながら、タブレットと実際の街並みを見比べていた。鳥居大輔君（17）は「数年後にはまた街が変わっているかもしれない」と、各地を撮影。「動画も作ると、面白そう」とアイデアを膨らませている。横山菜々さん（17）は「年代を経るうちに観光客向けの道になっていった感じが分かった。平和通りは日用品の店が多くて、今も地元の人に親しまれているようよかった」と話した。（沖縄タイムス社提供）

毎日新聞社賞受賞 毎日新聞 2015年11月3日(朝刊)

毎 日 新 聞

(第3種郵便物認可)

くらしナビ  学 ぶ

新聞で
学ぼう

タブレットに地図と記事

静岡県立裾野高・伊藤智章教諭 GISで地理教育

地図と新聞記事をタブレット端末に取り込み、現場での地理教育に取り組む静岡県立裾野高校の伊藤智章教諭(41)の実践がGIS(地理情報システム)を駆使したNIE(教育に新聞を)活動として注目されている。本年度の「初等中等教育におけるGISを活用した授業に係る優良事例表彰」(地理情報システム学会主催、毎日新聞社共催)では毎日新聞社賞を受賞した。評価対象となった沖縄県の修学旅行での活用例をレポートする。

●学校に無線LAN設備なく

一般にGISの活用というとオンラインが多いが、伊藤教諭の試みはオフラインで使ったところが特徴だ。「学校にタブレット端末が10台あるが、無線LANの設備がない。データの取得にもものすごく時間が必要で、やむなくオフラインでの活用を考えた」と話す。端末はあっても通信回線がないというのは学校現場に共通した課題だという。

●沖縄の修学旅行で活用

同校は複数の新聞が一定期間提供されるNIE実践指定校ということから、修学旅行では「地図」と「新聞」をタブレットに搭載しようと考えた。「iPodに音楽をたくさん入れて、どこでも自由に聞けるイメージの地図版だ。何枚でも持ち歩ける」と伊藤教諭。タブレットに入れた多数の地図と新聞記事を通信回線を使わずに現場で取り出し、見て学ぶ試みだ。

利用したソフトは、ATR Creative社の「ちずぶらり」シリー



伊藤智章教諭

ス。同校の修学旅行先の沖縄のいろいろな地図をあらかじめタブレットに取り込んでおく。さらに沖縄の地方紙の記事を読み込み、地図に「ピン」を立てる形で、その記事と地図上の位置を出発前に関連付けておく。

百貨店「沖縄三越」は昨年9月に閉店した。地図上のその跡地をタップすると沖縄タイムスの「さよなら沖縄三越」の記事が出てくる。糸満市の水産加工会社をタップすると、その会社がフカヒレを中国に輸出するという記事。沖縄市のコザ銀天街という商店街をタップすると、街の活性化のために巨大壁画が描かれたという記事が出てくる。

●現場で関連分り興味

入力段階で新聞記事を切り抜いて読み込み電子化する仕組みの



沖縄タイムス社提供の記事に伊藤教諭が地図データを組み合わせてタブレットに搭載した画面



ため、伊藤教諭は「紙の新聞を触ったことがない生徒もいて、記事の探し方、読み方から説明しなければならなかった」と苦笑する。それでも「生徒たちは実際の現場

で地図とニュースが関連付けられるので興味を持ったようだ」と手応えを感じた様子だ。

教材の活用はオープンでオンラインが理想だが、今回はあえて「クロスド&オフライン」で挑戦したといい、無線環境の貧弱な学校現場でのタブレット活用の新たな試みともなった。

【須藤晃、写真も】

GIS

「Geographic Information System」の略で「地理情報システム」と訳される。地理空間情報を電子地図上で一体的に処理する情報システム。位置や空間に関するさまざまな情報をコンピューター上で重ね合わせることで、情報の分析や解析をしたり、情報を視覚的に表示させたりできる。多くの地方自治体がハザードマップや森林と農地の状態を把握する際などに使っている。



Newspaper in Education